

き、すぐにシンガポール制府（軍務を司る部署）に照会し、また日本の朝廷に通達し指示を仰いだ。日本領事によれば：この二人は日本では非常に著名な人物で、シンガポールに上陸した際、宮崎寅蔵は恒春号の邱菽園を通じて康と面会を申し入れた。面会を希望した理由は、現在の中国の乱れた情勢についてどう考えるかを康に聞きたいということであった。彼は日本の新聞の取材者であるという。以前、康有為が日本に逃亡した際、宮崎とよく往来し、その自宅にもしばしば逗留し、旧交があったため面会を希望した。10日午後になって、国は強制追放援助の例により、二人を逮捕した。これに対し、日本領事は次のように述べた：シンガポールが、両者が康有為を攻撃する疑いがあるとみなした所以である。 本案は十三、十四両日、護督と輔政司、律政司及び日本駐シンガポール領事が一堂に会し尋問がおこなわれたが、供述書は極秘情報であり、外部の人間は知り得ない。尋問の結果、両者は日本に強制帰国となった。即ち本日二時に日本の汽船佐渡丸に引き渡され、そこで釈放となったが、今後五年以内はシンガポールへの再上陸を許可しないとされた。聞くところによればさらに四人の日本人が、さきごろフランスからシンガポールに到着した。この四人と宮崎らは仲間であり、宮崎らの逮捕を知って、ホテルに宿泊して状況を探った。それによれば、彼らは宮崎、清藤が逮捕されたのは冤罪だと証言できるとのことである。さらに日本領事によれば、なぜこの二人が逮捕されたのか理解できないという。この事件を聞いて日本領事は軍部にに対し、この二人は善良な市民であり、宮崎寅蔵は日本の大手新聞の記者で、清藤幸三郎は東亜会の同人だと説明した。東亜会は日本の皇太子が主席を務める団体である。シンガポールにきた四人の日本人は、宮崎のよい友人であり、このうち一人は東京日本報の主筆で、いま一人は前学校大臣の弟の領事である。さらに言うには、この事件について日本の朝廷にすでに打電しており、英国と日本の関係に若干の支障が生じるのは否めないとしている。宮崎らは日本の大手新聞の記者で、国政に関与する人物でもある；またこの二人は逮捕された際、銀兌換紙幣二万七千元、現金二百五十元、二振りの鋭利な剣を所持していた。さらにシンガポールのホテルで状況を探索していた四人の日本人のうち一人はすでに拘留されたとしている。日本駐シンガポール領事は本件について、バリクプラウへ赴き報告するとしている。この事件の後、康有為は章芳琳宅に転居しており、同日の『叻報』の『逃亡者転居』という記事で「康有為は現在すでに章芳琳宅に居を移したことを、ここに記載し、訪問を希望する親しい友にこれを知らせる」と報じられている。文書の中の「宮崎寅蔵」とは宮崎滔天のことを指している。

⁸³ 孫文は、1910 年に手紙で宮崎寅蔵と萱野長知に横浜を離れたと告げた後、すでに1910 年 7 月 11 日にシンガポールに到着していた。

⁸⁴ 「康有為攻撃事件と記録する」記事を参照、『叻報』、1900 年 7 月 12 日。

⁸⁵ 孫文に対する海峡政府の態度（1900-1911）」、前掲書、168 頁。

⁸⁶ スウェッテナムはかつて海峡植民地で孫文の追隨者はほとんどいないと指摘していた。CO 273/357 dated 26th July 1900 & CO 273/267 dated 23 th January 1901. を参照。

⁸⁷ 『シンガポール華人通史』、前掲書、190 頁。

⁸⁸ 朱小玲『社会心理から辛亥革命の歴史的制限をみる』、参照ウェブサイト
<http://study.ccln.gov.cn/fenke/lishixue/ljspxwz/lzsgs/225638.shtml>。

⁸⁹ 資料の収集は容易いものではなく、シンガポールの革命志士たちが意図的に大量の文献を保存していなければ、多くの歴史が埋没し明らかにされることはなかったと言える。

⁹⁰ 宮崎明氏寄託、宮崎兄弟資料館保管。

⁹¹ 一領一正とは惣、平時は農業に従事し、戦時には軍役に服した在御家人のこと。庄屋層に次ぐ家格で、惣庄屋が藩庁の指令によって手永から手永へと転任して歩くという行政的性格を持っているのに対して、彼らは純然たる地付きであった。町奉行制と手永制度の設置と同時に設けられた基幹的な郷土層と言える（池田勝「肥後藩の郷土制度」、渡辺京二『評伝 宮崎滔天』35-36頁）。

⁹² 他領に潜行してその地の状勢・民情等を視察・判断し報告する役目。

⁹³ 宮崎滔天「三十三年之夢」『宮崎滔天全集 第一巻』26頁。

⁹⁴ 築地宜雄「宮崎滔天」『宮崎滔天全集 第五巻』473頁。

⁹⁵ 荒木精之「宮崎八郎資料控(四)家郷への書簡など4」『日本談義』127号・6月号、1961年、68頁。

⁹⁶ 松本寿三郎・板楠和子・工藤敬一・猪飼隆明『県史 43 熊本県の歴史』山川出版社、1999年、282頁。

⁹⁷ 「瀬口吉之助『宮崎八郎の生涯』67頁。

⁹⁸ 上村希美雄『宮崎兄弟伝 日本篇上』、432頁。1910年2月、民蔵は土地復権同志会の名でアメリカの慈善家として知られたアンドリュー・カーネギーに46,240ドルの寄付を求めており、その手紙には彼が土地復権運動を志すまでの経緯が記されている（上村希美雄『民権と国権のはざま』100頁）。

⁹⁹ 同上、430頁。

-
- ¹⁰⁰ 宮崎民蔵『吾ガ信仰 人生行路之案内』緒言 2 頁。
-
- ¹⁰¹ 宮崎滔天「孫逸仙」『宮崎滔天全集 第一巻』493 頁。
-
- ¹⁰² 孫文『孫文学説』上海強華書局、1919 年、91 頁。
-
- ¹⁰³ 「白浪」は、『後漢書』に記された黄巾の乱の残党「白波賊」に由来する。
-
- ¹⁰⁴ 榎本泰子『ミネルヴァ日本評伝選 宮崎滔天—万国共和の極楽をこの世に一』ミネルヴァ書房、2013 年、80 頁。
-
- ¹⁰⁵ 上村希美雄『宮崎兄弟伝 日本篇上』葦書房、1984 年、429 頁。
-
- ¹⁰⁶ 「三十三年之夢」、162 頁。
-
- ¹⁰⁷ これまで晩晴園の建築背景を紹介する際、1880 年代に落成したというのが一般的であったが、この説は修正の必要がある。2012 年初め、晩晴園の研究員が国家档案局と国家土地局の資料をもとに、さらに当時の『海峡時報』の報道と広告から、晩晴園の落成が 1902 年前後であることを証明した。この年代で間違いはないと思われる。
-
- ¹⁰⁸ ゴムの歴史文物研究小組編『晩晴園』（シンガポール：中華総商会、1971）26 頁。
-
- ¹⁰⁹ パラディアンスタイルの起源は 16 世紀のイタリアで、ギリシャ・ローマ式建築のルネサンススタイルであり、ヨーロッパでは 19 世紀まで非常に流行した。パラディアンスタイルの創始者はイタリアの建築家パラディアン（1508-1586）である。John Harris, The Palladians (New York: Bizzoli International Publications, 1982) 11 頁を参照。
-
- ¹¹⁰ 最初にシンガポールでパラディアンスタイルを提唱したのは Coleman（コールマン）である。彼は建築家で、後に公共工程局の監督官と土地測量師となった。しかしコールマンはパラディアンをそのまま踏襲せず、熱帯の気候に合うように改良し、“アンティーク・コロニアル別荘”という建築スタイルに発展させた。Jane Beamish & Jane Ferguson, A History of Singapore Architecture—The Making of a City (Singapore: Graham Brash Pte Ltd, 1955)、19・117 頁を参照。

111

“The Straits Times” 23rd March 1902 (広告)。『海峡時報』の広告には、晚晴園の具体的な落成日は明記されていないが、1902 年 2 月 23 日、梅泉宝は陳という医師の歓送会をここで初めて開いており、林文慶医師も宴席に参加しているため、現在までで 115 年の歴史があることになる。

112

張永福が晚晴園を購入した際の、土地売買契約書は 1905 年 8 月 19 日付で署名されている。張永福がこの屋敷を買ったのは、母の住まいとするためであった。“晚晴”という名称は、唐の詩人李商隠の『晚晴』という漢詩にちなむ：“天意は幽草を哀れみ、人は晚晴を重ず”。もとの詩は以下の通り：“辺鄙な土地にある住まいから城門の外の小さな城郭を見下ろすと、初夏の雨上がりの夕方は清々しい。雨で濡れた小さな草が天から哀れに思われてふいに夕陽を浴びせられる。人にとって晚晴とは一瞬で過ぎ去るかけがえのないものだ。広々とした眼下を高い楼閣から望み、ささやかな夕方の光が窓から降り注いでいる。鳥は雨が上がって乾いた巣に戻れるのを喜び、その飛ぶ姿もまたかろやかだ”。また陳楚楠は張永福との合作で『晚晴園有感（晚晴園に感ず）』という詩を詠んでいる。上 15 字は陳楚楠が、その後は張永福により創作された。以下はその詩の全文である：

天が芳草を哀れみ 雨があがった夕方の喜び
 素晴らしい晚晴 柔らかな夕陽が山に清々しい
 荒れ果てた土地は 今は鳥たちの集まる城のよう
 花々は葉を茂らせ 木々はゆたかな緑
 蝶は風に舞い 蚕蛾は温もりのなか
 芳香に誘われて庭園へ出れば 木陰は青い海のよう
 かけがえのない絆 愛について語り合う
 楼閣から北を望めば 血に染まった兵士の群れ

この詩は晚晴園にそこはかとない詩情を添えている。

113

孫文が 8 回シンガポールへ訪ねたことの研究については、Wang Gungwu, Wang Gungwu, “Sun Yat-sen and Singapore”, Journal of the South Seas Society, Vol XV, Pt 2 (Singapore: The South Seas Society, December 1959), 55-68 頁を参考。

114

張永福は 1910 年に晚晴園を売却し（売買契約書の署名日は 1910 年 8 月 4 日）、その後晚晴園は幾たびも人の手に渡り、修理をしていなかったこともあって建物は傷みが激しく見る影もなくなった。張永福は晚晴園を再訪した際、次のような詩を詠んだ：「画壁含苔満座塵，楼台荒冷暗無人」（『晚晴園有感』）。1935 年末、中国駐ドイツ大使の程天放（1899-1967）が赴任する際にシンガポールを訪れ、晚晴園が「不加修葺，断瓦頽垣，閼之惨目」であるのを発見し、完全に倒壊するか外国人に売却されるのではないかと心配して、ベルリン到着後すぐに国民政府主席の林森に電報を打ち、中央政府に「シンガポールの晚晴園を国が購入し史跡として保存する」よう提案した。1936 年 5 月政府は次のことに同意した：“国が買い戻して保存する”。

115

晚晴六君子が連合で晚晴園を買い戻した契約書は、署名日が 1938 年 4 月 25 日となっており、R. C. H. Lim & Company, Advocates and Solicitors が法的手続きをおこなった。晚晴園買い入れの経緯については陳丁輝「挽狂瀾于既倒—— 1937 年と晚晴園六君子」『聯合早報』2013 年 12 月 28 日。

-
- ¹¹⁶ 『晩晴園』、前掲書、23-25 頁。中華総商会は晩晴園の心強い支持者である。
-
- ¹¹⁷ 国家档案局所蔵晩晴園建築図、通し番号 BP 46/29。
-
- ¹¹⁸ 李成忠「シンガポール晩晴園」『シンガポール同徳書報社七十周年紀念特刊』（1980-81）、143-146 頁。
-
- ¹¹⁹ 莫美顔「晩晴園は歴史と文化の中心となる」、『聯合早報。星期副刊』、1997 年 11 月 9 日。
-
- ¹²⁰ 『聯合早報』の記事「辛亥革命百周年紀念に合わせ晩晴園が 10 月 9 日リニューアルオープン」、2011 年 9 月 30 日。
-
- ¹²¹ 資料は晩晴園より提供：建設計画に基づくと、晩晴園が所有する土地面積では足りなかったため、中華総商会は政府から隣接する 360 平方メートルの土地を購入した。このため晩晴園の総面積は 3119.62 平方メートルとなった。

【例言】

文中、一部現在では不適切と思われる語彙・用語がみられるが、史料性格から見て、執筆者の表現は、あえてそのままとした。



参考文献 References

中国語文献 Chinese

- 陈楚楠，〈晚晴园与中国革命史略〉，载《东南亚研究学报》（创刊号）（1970 年 8 月）：页 50-54。
- 陈丁辉，〈挽狂澜于既倒—1937 年与晚晴六君子〉。载《联合早报》，2013 年 12 月 28 日。
- 陈丁辉、潘宣辉主编，《海外逢知音：孙中山、新加坡与日本特展》，新加坡：晚晴园—孙中山南洋纪念馆，2013 年。
- 陈固亭著，三民主义研究所主编。《国父与日本友人》。台北：幼狮书店，1965 年。
- 杜南发，〈孙中山到底来新几次？〉载周兆呈主编，《百年辛亥 南洋回眸》，页 10-17。新加坡：八方出版，2011 年。
- 和田正广、芦益平合著，〈孙中山先生与日本九州〉，（第二届海外华人研究与文献收藏机构国际合作会议论文，香港中文大学，2003 年 3 月 12-15 日）。
- 柯木林，《从龙牙门到新加坡：东西海洋文化交汇点》，北京：社会科学文献出版社，2016 年 12 月第 1 版。
- 柯木林，《石叻史记》，新加坡：青年书局出版，2007 年 8 月。
- 柯木林主编，《新华历史人物列传》。新加坡：教育出版私营有限公司，1995 年 11 月，第 1 版。
- 柯木林主编，《新加坡华人通史》。新加坡：新加坡宗乡会馆联合总会，2015 年 11 月。
- 柯木林，〈新加坡纪念辛亥百年的意义〉，载《联合早报》，2011 年 10 月 28 日。
- 柯木林，〈真的是“海外逢知音”〉，载《联合早报》，2013 年 6 月 15 日。
- 李成忠。〈新加坡晚晴园〉。载《新加坡同德书报社七十周年纪念特刊》（1980 - 81）（新加坡：同德书报社，1981 年）
- 李奕志，〈神秘祠堂社公庙〉，载林孝胜等著，《石叻古迹》，新加坡：南洋学会，1975 年 4 月。
- 李元瑾，《东西文化的撞击与新华知识分子的三种回应：邱菽园，林文庆，宋旺相的比较研究》，新加坡：新加坡国立大学中文系，八方文化企业公司，2001 年。
- 林义顺。〈华侨林义顺讲开发西北富源〉。载《华侨周报》21（1932 年）：页 71—74。
- 莫美颜，〈晚晴园将成文史中心〉，载《联合早报。星期副刊》，1997 年 11 月 9 日。
- 孙文，《孙文学说》，上海：强华书局，1919 年。
- 橡胶发展历史文物研究小组编，《晚晴园》，新加坡：热带经济植物研究社，1971 年。
- 张曦娜，〈配合辛亥革命百年纪念晚晴园 10 月 9 日重新开放〉，载《联合早报》，2011 年 9 月 30 日。

张永福,《南洋与创立民国》,上海:中华书局,1933年。

中国第一历史档案馆编,《清代中国与东南亚各国关系档案史料汇编》,北京:国际文化出版公司,1998年4月,第1版。

朱小玲,《从社会心理看辛亥革命的历史局限》,
<http://study.ccln.gov.cn/fenke/lishixue/lshjpz/lshzgs/225638.shtml>。

〈组织革命团体〉,载中山大学历史系孙中山研究室等编,《纪念孙中山先生》,北京:文物出版社,1981年10月。

〈左子兴先生年谱〉(节录),载左秉隆著,《勤勉堂诗钞》,新加坡:南洋历史研究会,1959年。

英語文獻 English

Beamish, Jane, and Jane Ferguson. A History of Singapore Architecture – The Making of a City. Singapore: Graham Brash Pte Ltd, 1955.

Chen, Mong Hock. The Early Chinese Newspapers of Singapore 1881-1912. Singapore: University of Malaya Press, 1967.

Colonial Office Records, 273/267, 273/343 273/357, 1900-1908.

Hare, George T. Federated Malay States, Census of the Population, 1901. Kuala Lumpur: Government Printers, 1902.

Harris, John. The Palladians. New York: Bizzoli International Publications, 1982.

Lee, Lai To. "The Attitude of the Straits Government towards Sun Yat-Sen, 1900-1911." In The 1911 Revolution: The Chinese in British and Dutch Southeast Asia, edited by Lee Lai To, 35-47. Singapore: Heinemann Asia, 1987.

Merewether, E.M. Report on the Census of the Straits Settlements Taken on 5 April 1891. Singapore: Government Printing Office, 1892.

Nathan, J. E. The Census of British Malaya, 1921. London: Waterlow and Sons, Ltd, 1922.

Pountney, A.M. The Census of the Federated Malay States: Review of the Census Operations and Results, 1911. London: Darling & Son, 1911.

Tan, Teng Phee and Shaun Phua, eds. Kindred Spirits: Dr. Sun Yat Sen, Singapore and Japan Special Exhibition. Singapore: Sun Yat Sen Nanyang Memorial Hall, 2013.

Wang, Gungwu. "Sun Yat-sen and Singapore." Journal of the South Seas Society XV, Pt 2 (December 1959): 55-68.

Yen, Ching Hwang. The Overseas Chinese and the 1911 Revolution, with Special Reference to Singapore and Malaya. Kuala Lumpur: Oxford University Press, 1976.

Yuen, Choy Leng. "The Japanese Community in Malaya before the Pacific War: Its Genesis and Growth." *Journal of Southeast Asian Studies* 9 (September 1978): 163-179.

日本語文献 Japanese

〔史料〕

宮崎民蔵『吾ガ信仰 人生行路之案内』1911年。

〔書籍〕

荒尾市史編集委員会編『荒尾市史 通史編』2012年。

上村希美雄『民権と国権のはざま 明治草莽思想史覚書』葦書房、1976年。

——『宮崎兄弟伝』（日本篇上・下、アジア篇上・中・下）葦書房、1984—1999年。

——『宮崎兄弟伝 完結編』熊本出版文化会館、2004年。

——『龍のごとく 宮崎滔天伝』葦書房、2001年7月。

上村希美雄監修『夢 翔ける 宮崎兄弟の世界へ』熊本出版文化会館、1995年3月。

榎本泰子『ミネルヴァ日本評伝選 宮崎滔天—万国共和の 極楽をこの世に—』ミネルヴァ書房、2013年6月。

瀬口吉之助『宮崎八郎の生涯 短命ながら素晴らしく生きた男』産業動向研究所・産業と文化、1978年6月。

松本寿三郎、坂楠和子、工藤敬一、猪飼隆明『熊本県の歴史 県史 43』山川出版社、1999年4月。

宮崎龍介、小野川秀美『宮崎滔天全集』（第一巻～第六巻）平凡社、1971-1976年。

渡辺京二『評伝 宮崎滔天（新版）』書肆心水、2006年3月。

〔論文〕

荒木精之「宮崎八郎資料控（四）父への書簡など 4」『日本談義』127号・6月号、1961年6月、68-71頁。

池田勝「肥後藩の郷土制度」『西日本史学』14号、1953年6月、52-60頁。

〔資料提供者〕 宮崎 荻路氏 宮崎 黄石氏

荒尾市宮崎兄弟資料館
シンガポール孫中山南洋紀念館 晩晴園

共同報告書

日本からシンガポールへ

宮崎兄弟と孫文と辛亥革命

執筆者

I.III. 柯 木 林 (シンガポール孫中山南洋紀念館 晩晴園学術委員)

II.IV. 野 田 真 衣 (荒尾市政策企画課副主任、学芸員、歴史学習士)

監 修 (II.IV)

猪飼 隆明

翻 訳

陳 俊 延

編 集

陸 彩 霞

発 行

令和元 (2019) 年 7 月

荒 尾 市

〒864-8686

熊本県荒尾市宮内出目 3 9 0 番地

印刷・製本

デザインのパートナー

荒尾市宮崎兄弟資料館
シンガポール孫中山南洋紀念館
晩晴園
共同報告書





表紙写真：1913 年孫文来荒時記念写真
【所蔵：荒尾市】